

第3回 電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会 議事要旨

平成25年2月8日(金)

13:30~15:30

伊勢市役所 4-5会議室

1. 開会

(事務局)

- ・定刻となりましたので、ただ今より、第3回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を開催します。

(三重県 地球温暖化対策課長 挨拶)

- ・ガソリンスタンドの廃業が全国的に加速していて、ガソリン難民が増えるという新聞記事がありました。この記事と今回の取り組みとは直接関係はありませんが、温暖化対策の取組を進めていく中で、このような社会経済情勢は意味を持ってくるのではないかと考えています。
- ・今回の協議会は第3回目、来月の第4回ではとりまとめに入ります。各WGもかなりの回数をこなしています。いよいよ行動計画策定段階となりますので、今回も熱心なご議論をどうぞよろしくお願い致します。

(事務局)

- ・配布資料確認。
- ・以降の会の進行は、朴会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(朴会長)

- ・皆様こんにちは。本日もご参加いただきありがとうございます。
- ・協議会や各WGで熱心な議論を重ねていただき、皆が当初、同様に感じたことは、全体のイメージ、ビジョンが見えにくいということでしたが、この事業の背景についての適切な説明もあり、いろんなことが見えてきました。
- ・行動計画案：おかげさま Action! は、それぞれがもつイメージやWGの位置づけ、短期的中期的長期的な目標が非常に分かりやすく整理されています。伊勢に訪れる多くの方々がどういう気持ちで訪れるのか、伊勢で過ごした時間がどれだけ来訪者の人生にインパクトを与えるか、更に地元においては、まちづくりや、子どもたちに残すものとして今が未来にどうつながっていくのか。
- ・今回の協議会ではまず、おかげさま Action! をきちんと見て、これはというものを採り上げ具体的に決めていきたい。WGの議論のように同じことの繰り返しは避けたい。今日は大変な重要な会議になるので、更なるご協力をお願いしたい。よろしくお願いします。
- ・資料1：おかげさま Action! について、事務局から説明をお願いします。

2. 行動計画案（「おかげさま Action！」）について

（1）短期・中長期で実施する内容について

（事務局による資料1説明）

（朴会長）

- ・ありがとうございました。この行動計画案について、個人的意見でもよいし、またWGで議論されたことで追加すべき点があれば、是非ご意見をいただきたい。どの項目からでも結構である。

（日産自動車株式会社 西片氏）

- ・伊勢市の計画として、二酸化炭素の削減目標となる数値が示されていたと思う。
- ・行動計画案の中に、数値目標が全く示されていない。ノルマでないにしろ、なんらかの数値目標が必要なのではないかと個人的に思う。もちろん、敢えて示さないのであればそれで問題ない。

（事務局）

- ・事務局としては、数値目標を示してもよいと思っている。ただ、協議会での取組内容がまだ決まっておらず、充電器一つ設置していない中、数字のみを追いかけるのは苦しくなるだけではないか。まずはみんなで取組んでいくという姿からつくり、見直しをかけた時に数字をおいてはどうかと思う。

（日産自動車株式会社 西片氏）

- ・伊勢市で削減目標値があるのであれば、その数字にのっとったほうが健全と個人的には感じる。他地域の協議会を見ても、数値目標がある方がダイナミックな動きができるという印象である。但し、それにしばられて身動きできないのはよくないが。
- ・伊勢市の目標値があれば教えていただきたい。

（伊勢市環境課 坂本氏）

- ・2020年度における伊勢市の温室効果ガス排出量を2007年度比30%削減を目標としている。森林吸収量2%を含む。
- ・うち、運輸部門のみでいうと、削減目標58%である。

（朴会長）

- ・この協議会はどのくらいの責任と権限があるのか分からない。少なくとも〔3.計画の位置づけ〕において、三重県、伊勢市の掲げる二酸化炭素削減目標、そのうち運輸部門の目標に関しては、背景として入れるべきである。EV導入後の数値は早速には出ないだろうが、数値化できるものがあれば一旦出してみて、どこまでを活かすかは、協議会で議論ができると思う。「県や市の数値目標はそれぞれの実行計画あるいはHPを見て下さい」というのは不

親切かと思う。いちいち文章化しないまでも、後ろの参考資料に掲載するのはありがたいと思っている。

- ・ご意見ありがとうございました。どの分野からでもよいのでどんどんご意見をいただきたい。

(トヨタ自動車株式会社 地域統括部長 河合氏)

- ・使用されている言葉の定義を確認させていただきたい。
- ・短期的に取り組む内容として挙げられている、「電気自動車が活用されている状況が見られる状態にする取り組み=ショーケース化」とあるが、この“ショーケース”という言葉の意味を教えて欲しい。活用されている状況がみられるというのは、車がただ置かれているという意味ではないだろう。
- ・また、「統一カード」も理解できない。先程、どんなカードでも使えるという説明があった。

(事務局)

- ・統一カードの表現は修正させていただく。ひとつの統一したカードという意味ではなく、いろんなカードで支払いができるという意味でご理解いただきたい。
- ・ショーケース化については、EVが伊勢市を走っている状態、姿を見せることができるのが一番よいと思うが、電源として活用されている姿を見せるのもひとつある。そういうのが、あっちこっちで見られるようになれば最もよいと思っている。ショーケース化の取り組みについては、あとで説明する。

(株式会社トヨタレンタリース三重 代表取締役専務 岩崎氏)

- ・今年が遷宮の年である。遷宮の前後は観光客が増加するが、その時期が過ぎるとまた減少する。県外からの客は内宮しか知らないとか、参詣のルールを知らない人がほとんどである。観光ルートがあればよいと思う。客の宿泊先の多くは鳥羽であることからしても、伊勢市単独でやっていけるか心配になる。
- ・実際、EV等の普及は進んでいない。その理由として、やはりバッテリーの問題が考えられる。大阪や中京圏から来訪いただくのであれば、とてもじゃないけど電気だけでは走れない。低炭素ということであれば、燃費のよい車を各社出している。欧州では環境にやさしいディーゼル車も注目を浴びている。もっと総合的に見て、EV等に限らなくてもよいのではないかと思う。
- ・道路が複雑なので、分かりやすい地図をつくって欲しい。
- ・短期3年間や中長期10年間で、EV車はどうなるか。燃料電池車もどんどん出てくる。もっと広範囲に考えると、こういう会議で10年後を語るのは無理な気がした。遷宮の年をうまく活用してお客さんに満足してもらい、おかげ横丁をアピールして再来してもらおうよう考える方が現実的ではないかと思う。根本から批判するような意見で申し訳ない。

(事務局)

- ・目標値をクリアするためにはみなさんと一緒に取り組む必要があると考える。計画を絵に描

いた餅にしないためには、CO₂の排出量が少ない乗り物にシフトしてもらう。そのツールのひとつとしてディーゼル車も含めた環境にやさしい電気自動車を普及させていきたいという思いがある。そういった取組みを進めるために協議会を設立したので、是非ともご協力いただきたい。

- ・案内については観光やサービスの部分の話になると捉えている。

(朴会長)

- ・この協議会の役割について考える必要がある。当面は、遷宮の時期にあたる、短期的=3年スパンでEV等、二酸化炭素の排出量が少ない乗り物を使った社会実証実験のようなものを実施することで、伊勢市がどういうビジョンでやっていくかを示すことになる。その中で技術イノベーションが起き、更に発展した新しい乗り物が出てく可能性もある。今考えられるあらゆる手段を使ってベストミックスした形で適用するのが本年で、それが少しでも効果があるなら、次のステップで生かしたい。
- ・この協議会で中長期=10年のものをつくるには、時間的制限、面的制限、権限問題などがあるので、これについては、ひとつの提案、提言くらいのものご理解いただきたい。

(日産自動車株式会社 西片氏)

- ・弊社のEVやトヨタのプラグイン含め、価格を下げたり航続距離を伸ばすなど努力はしているものの、販売は伸び悩んでいる。新しい産業が始まる時には、必ず生みの苦しみが伴う。100年のガソリンの時代から100年のゼロエミッションの時代が変わっていく中で、電気自動車や燃料電池車等でできたが、排気ガスゼロというものが出てこない、とてもじゃないけど、58%削減は達成できないと思う。生みの痛みはあるものの、あがいてEV等、あるいはPHVや燃料電池車にあえてこだわって今後の未来に向かっていくという、この協議会の意義はすごくあると思う。是非ともぶれずに進めていただきたい。

(朴会長)

- ・ありがとうございます。非常に貴重なご意見が出てありがたい。
- ・身近なものとして考えたいのが、4ページの〔5.2 短期的に取り組む内容〕である。先程、ショーケースや統一カードに関して事務局から説明があったが、できるだけ早急に考える必要がある。この辺について、みなさんから質問、提案いただければありがたい。

(トヨタ自動車株式会社 地域統括部長 河合氏)

- ・この行動計画案は皆さんの意見が集約された結果つくられたものだと思うが、本音をいうと、外堀提案ばかりしっかりしていて、実際に車が使われなければ言葉のみが泳いでいる印象である。民間事業者はサポートや提案、アドバイスができて、主体側の意識が伴わないと意味がない。

(朴会長)

- ・多分、実際にやってみないと分からないことがたくさんあるかと思う。
- ・資料2、資料3の説明を聞いてから、再度資料1に戻ってご意見を伺うこととする。事務局から資料説明をお願いします。

(事務局)

- ・先程の河合様からのご意見は観光WGでも出ている。地元の方は何に取り組みたいのか、車両が走らないと始まらないという意見である。この件については検討しようということになっている。高額な買い物なので、すぐに導入することは難しいが、なんのために導入するかについて話し合えればと思う。
- ・資料3説明。

(朴会長)

- ・資料2の説明に入る前に言わせていただく。資料3でWGの検討概要を説明いただいたが、きちんとまとまったなという印象である。しかしながら、私としてはWGはいつまでも継続させる必要はなく、各WGから出た課題をどう総合的に組み立てるかを考える協議会に切り替える時期にきたと考える。
- ・資料2は、全体を見据えてひとつの流れを考えるとこうだ、というものが示されているので、説明は丁寧をお願いしたい。
- ・また、国からの補助は今ならどうなのか、そういったことを立体的に説明いただくと理解しやすいと思うので、資料2の説明ののち、参考資料の説明をお願いします。

(事務局)

- ・資料2、参考資料(国事業の公募要領等)説明。

(朴会長)

- ・大きなチャンスなのに、時間が足りず、いろんな意味で難しい。実際問題、購入してどうするかという問題もある。より現実に見合った形でのWGの仕方が必要となる。

(事務局)

- ・ア)観光WGにおいて、豊田通商から超小型モビリティ導入事業のご提案をいただいている。皆さんと一緒に取り組もうという話になれば、私どもとしてもすぐにでも申請手続きに入りたいと考えている。
- ・超小型モビリティは、トヨタからコムスが販売されている。日産のものは、まだ市場販売されていないと聞いている。

(朴会長)

- ・もし超小型モビリティの導入を事業としてやるなら、今日この協議会で決めないと間に合わ

ないのではないか。補足説明を願う。

(豊田通商株式会社 HEV 事業推進室 部長補 浅井氏)

- ・観光WGで超小型モビリティ：コムスを国交省の補助金を使って導入してはどうかという提案をした。超小型モビリティのうち、現在公道を走れるのはコムスのみで、私どももコムスに準じたシステムを作成していることから、提案をした次第である。
- ・費用面等、課題は多々あるものの、それを解決していけばなんとか事業として成り立つのではと前向きに検討している。とはいえ、苦しい部分もあるので、みなさんのお力添えをいただければ、具現化できるのではと考えている。
- ・例えば、稼働率をどうあげるかについては、旅行会社さんのご協力をいただき旅行のパッケージに組み込んでいただくとか、あるいは、地元の人に配送等で積極的にご利用いただくとも考えられるし、また、ボディに広告をしかければ収入もある程度見込める。駐車場、充電器の費用を抑えることが出来れば、あまり無理なく進められる事業ではないかと考えている。是非ご協力いただければと思う。

(朴会長)

- ・このWGの内容は資料3にのってないが・・・。

(事務局)

- ・資料3にはのせていない。具体的なプランは今後考える必要がある。

(朴会長)

- ・資料3は各WGにおける検討概要であるが、報告がなかった。

(事務局)

- ・申し訳ありません。超小型モビリティの導入の検討については、整理はされているが、WGの中で具体的にやる、やらないはまだ決定していなかった。整理段階で、豊田通商からお声かけいただき、公募期間が2 / 20までの国交省の補助事業に手を挙げられないかという相談をいただいたところである。これに取組むかどうかの判断を協議会でしてもらえたら、具体的スキームは我々と豊田通商さんと参画希望主体の方とともに考えたいと思う。

(三重県 地球温暖化対策課長)

- ・確実にできるプレーヤーが揃ったわけではない。一方で時間が足りない、期限が迫っている中、見送るにはおしい補助メニューである。もしプレーヤーが揃えば是非チャレンジしたい。まずそういう方向で取組ませて欲しいという主旨での提案である。

(朴会長)

- ・わかりました。

(事務局)

- ・コムスの車両自体は 80 万円で、それに 40 万円ほどで通信機器等のシステムを組み込めば、これはスマホ予約ができたり電池残量が分かるといった情報提供があるというもので、合計 120 万円。補助対象となるのは車両のみ(半額)で、システムの 40 万円については対象外となる。

(朴会長)

- ・安全性はいかがか。コムスは車という認識でよいか。

(豊田通商株式会社 HEV 事業推進室 部長補 浅井氏)

- ・コムスは、2000 年から販売されている車両で、昨年 2012 年 7 月に販売開始されたものについては 2 代目にあたり、4 輪原動機つき自転車として公道走行が可能である(日本と欧州のみ可能)。コムスは一人乗りであるが、二人乗りは日産さん他、複数のメーカーが販売に動いておられると聞いている。

(事務局)

- ・セブンイレブンでは既にコムスを導入済みで、配送で使用している実績がある。

(朴会長)

- ・みなさん、この提案についてどうお考えか。

(近畿日本鉄道株式会社 事業開発部部長 松井氏)

- ・協議会全体ではなく、この取組に興味のある団体だけが手を挙げて進めるという前提でのお話か。

(事務局)

- ・協議会からの申請になる。申請書類に記載されている参画者全員が補助対象となる。

(近畿日本鉄道株式会社 事業開発部部長 松井氏)

- ・かかった費用をどういう形で分配するのか。こちらは導入費用なので、導入したことによるランニングでプラスになるのかマイナスになるのか、それをどう負担するかを示すことができないと、社内に持ち帰って説明できない。

(事務局)

- ・その点については、豊田通商でご検討いただいているので、お話しいただければと思う。

(近畿日本鉄道株式会社 事業開発部部长 松井氏)

- ・事業自体が提案だと思う。協議会では一体どんな事業をするのか。リースの車として導入するのか、その他の使い方をするのか。それで収入あるいはコストがどの程度なのか。また、各社ということになると、誰がどの比率で按分するかを踏まえないと、会社に持ち帰って説明ができない。事業の位置づけを判断するという意味で確認させていただきたかった。

(事務局)

- ・私たちが今すぐにはご回答できない。まずは手を挙げるかどうかが問題で、提出期限が2月20日までと迫っているので、みなさんとご検討させていただく形で枠組みを作れないかと思った。取り下げることとも可能ではある。

(事務局)

- ・協議会で申請できる。申請書に名を連ねている方が補助対象となる仕組みの補助制度である。まず、協議会で事業計画を出すかどうか、その期日が20日までとご理解いただきたい。説明不足で申し訳ない。

(朴会長)

- ・大変重要な話である。WGで具体的な取組内容を出してほしかった。私自身、やっと理解ができた。今のところ、皆さんには原則賛同していただきたいと思う。例えば、今、伊勢市であれば既にベースがあるので、早速協議会を通じて何かやれる可能性がある。あとは基本的な手順を踏む部分のみ了承を得られればということだと思う。

(本田技研工業株式会社 開発室 ブロックリーダー 川坂氏)

- ・今のこの協議会の状態で2月20日までにプランを練り上げてそれを提出するというのはあまりにも乱暴過ぎる。提出できる団体は、地方公共団体、協議会、個人を除く民間事業等があるので、協議会の名前でどうしても出す必要はないのではないかと。どうしてもというのであれば、伊勢市と豊田通商の2者でという方法もあると思う。豊田通商は実証実験もやっておられるし、システムも既にあるので、充分プランを書き上げられるのではないかと。あるいは雛形も既にお持ちではないかと。

(豊田通商株式会社 HEV 事業推進室 部長補 浅井氏)

- ・計画書の「モビリティの活用による観光振興、地域振興への貢献のあり方」等々とあるが、これは地域がどういうふうにかこれを使うかという問題を出す必要がある。車に関してはともかく、これに対する雛形は残念ながら持ち合わせていない。
- ・どうしてもというわけではなく、この方法であればそれほどお金を使うことなく、なんとか事業としてやれるのではないかとという提案である。むしろ、みなさんの協力の中で、WGのひとつの出口というか、形として見せていく方法としての可能性があるのではないかと感じている。

(東海日産自動車株式会社 執行役員 藤原氏)

- ・超小型モビリティは1人か2人しか乗れないので、観光プランの一つの目玉として出すにはどうか。大量の観光客が訪れるわけだから、EV等を使って便利に大量に移動する手段として電気バスはどうだろうというプランもあったが、先ほど事務局からのご説明にあったとおり、車体のみで7,000万円、充電器設置費用として7,000万円、計1億4,000万円の投資を考えると無理である。電気タクシーも同様に初期投資があまりにも高額で、今すぐは実現不可能という話があった。
- ・かといって、突然20日までに超小型モビリティを協議会の観光の目玉として取り上げるのは少し乱暴すぎる。やるなら、このプランが観光にどうきくのか、協議会にとってどういう意味があるのかをもう少し具体的に説明してもらって、協議会メンバーが納得して行う必要があると思う。少人数で乗る電気自動車の伊勢市への導入は、どういう位置づけでどう使っていくのか、よく分からない。写真にあるように、酒屋が一人で宅配する際、自転車より便利なのはわかるが、それと協議会の話はあまり関係がないと感じるので、少し冷静に位置づけを教えていただいた上で導入する、しないの話をしていただいた方がすっきりする。ただ期日が迫っているだけだとつらい。

(豊田通商株式会社 HEV 事業推進室 部長補 浅井氏)

- ・そもそも、国土交通省がこの補助事業を進めるのは、日産さん(ルノー)のツイジーを走らせるためではないかという理解である。日産も横浜でツイジーを観光で走らせておられたと思う。超小型モビリティをいかに自由に走らせるかが根本にあり、一人乗りでおっしゃるけど、伊勢には公共交通機関も通らず、近くに駐車場もないような観光地が多いと聞いている。これで自由に動けるのはチャンスと感じている。

(日産自動車株式会社 西片氏)

- ・おっしゃるとおり、国土交通省には、日本のこれからの社会に小型モビリティは重要という位置づけのもと、弊社製のニューモビリティ・コンセプトをモデルに規約を考えていただいている。
- ・ニューモビリティ・コンセプトは、現在のところ公道では走れないが、自治体からきちんと運輸局に届け出ただけであれば、例えば伊勢市内のみの走行であれば許可がおりると思われる。ただ、量産しておらず、価格も決まっていない中、20日のタイミングで用意できない。
- ・今後、超小型車は観光、福祉など様々なシーンで使われるだろうし、その意味は大きいと思う。伊勢という場所をモデルに超小型モビリティを全国に発信する、PRとしてはよいが、おっしゃるとおり、説明がない中で協議会の中だけで購入を進めるのは難しいという印象である。決してトヨタ社製のコムスの購入を邪魔しているわけではない。

(トヨタ自動車株式会社 河合氏)

- ・行動計画案：おかげさま Action! の〔4. 将来ビジョン〕の中に、『伊勢に住む人』と『伊勢を訪れる人』の2つに分かれている。この協議会は低炭素を目標にしている。私は単純な

考え方で、伊勢に住んでいる人が、国からの補助で安く車を買えるのであれば、それでいきましょうということは何故いけないのかと思う。

- ・超小型モビリティは一人乗りなので、観光利用も疑問だし、渋滞悪化の要因となることも考えられる。しかし、安く買えることによって、空気がきれいになるのであれば、別にそう難しく考える必要もないのではないかと。国がこういう協議会が必要というなら認められる。何の問題もないのではと単純に思う。

（事務局）

- ・補助の公募期間の関係上、皆さんには急ぎ決断を迫り、大変申し訳ない。おかげさま Action！の中で、皆さんが一体何にどう取り組むのかという点で戸惑いが生じていると思われる。私どもも、どんな絵が描けるか正直分かっていないが、コムスはあくまで低炭素社会を築いていく一つのツール、とっかかりとして提案した。

（朴会長）

- ・国の補助金については、今回に限らず、いずれまた出るのではと思っている。協議会があり、みなさんの考えや立場もある中、それぞれ努力している。ただ、市が直面している温暖化問題に貢献するチャンスがあるなら、私は地元の間人としてやりたい。
- ・私としては観光WGでもう少しなんとかして欲しかった。観光WGができないのなら、できる人だけで観光に関するWGを再度組み直すことも考えられる。国が第二、第三、第四の提案をしてきた時には即座に乗れる形にする。
- ・今できることはあるだろうと思っている。チャンスがあっても議論が煮詰まってないから実行に移せないというのはもったいない。伊勢市はCO₂を30%削減しなければならないという大変重要な背景も持っている。協議会メンバー全員の名前を連ねてと言っているわけではない。ただ、可能性のある部分にかけたい。EV車も今後、各社いろんなモデルが出てくるだろう。
- ・この協議会も少なくとも3年はもつと思っている。その間、いろんな取り組みを進めていくつもりである。来るチャンスは拒まない、誰も損する話がないならやる、という姿勢である。
- ・超小型モビリティに関して、協議会でできることから手を挙げるという基本的な方針について皆さんに諮りたい。反対の方はいるか。

（三重県 地球温暖化対策課長）

- ・急な話をもち出し申し訳なかった。バスもタクシーもコムスも導入したいが、お金が潤沢にあるわけではないので、一気に大量に導入することは難しいと思っている。チャンスがあれば出来るだけチャレンジしたい。
- ・コムスの導入に関する具体的な方針はない。ただ、協議会の皆さんの関わり方として、皆が同レベルで関わるのではなく、ある主体は運営面、ある主体は資金面、ある主体は制度、仕組みを応援する協力的立場で関わるなど様々あってよいと考えている。

(朴会長)

- ・言わば、協議会の名義で提案するということが、全員に負担をかけるということは一切ない。

(事務局)

- ・決して儲かるものではなく、どちらかというと赤字になると思っている。

(豊田通商株式会社 HEV 事業推進室 部長補 浅井氏)

- ・超小型モビリティは、コムスに限定していない。システムさえ入れば、ホンダ社製でも日産社製でも可能と思っている。

(伊勢おはらい町会議 会長 前田氏)

- ・超小型モビリティは、電源の役割は果たすのか。

(事務局)

- ・電源の役割は今のところない。但し、充電コンセントも家庭用コンセントの規格のため、すぐに充電器をつくる必要がないので、導入しやすいかとは思う。

(豊田通商株式会社 HEV 事業推進室 部長補 浅井氏)

- ・携帯の充電くらいは出来る。よくある、車のアクセサリコンセントと同じ程度とご理解いただきたい。

(伊勢おはらい町会議 会長 前田氏)

- ・申請書の地域振興等への貢献のあり方として、イメージできる伊勢市の活動がある。超小型モビリティが電力源になるならば、その活動と連携するとうまくいくのではと将来に期待したい。
- ・超小型モビリティを導入する費用としては、車体と設備もろともで80万円を誰かが負担するという理解でよろしいか。

(事務局)

- ・儲かる仕組みとして、スポンサーをつける、車両のボディに広告をつけるというご提案を豊田通商からいただいている。そういった運用も考えたい。

(伊勢おはらい町会議 会長 前田氏)

- ・伊勢市では、各小学校区で地域課題を解決する「まちづくりの会」という活動がある。例えば、高齢者に対する買い物支援などで、自転車に代わってコムスを利用することも考えられるし、コムスを中学校に何台か置いてその利用方法を中学生に見える化するなど、伊勢市全体の取組の中で使えないかと思う。アイデアはたくさん浮かぶ。助成金がもらえるなら、それをうまく使えばよい。

(伊勢市 環境生活部 部長 中井氏)

- ・様々なご意見をいただきありがとうございました。
- ・コムス導入の提案には正直疑問を感じ、中でも費用負担は誰がするのが一番の疑問だった。その辺への工夫(広告など)も考えられるが、市から費用を捻出することは現在難しい状況なので、なんとか民間の方をお願いしたい。私ども行政としては、駐車場などは案内したいと考えている。
- ・この協議会の役割は、観光と市民へのPRの2面である。観光面として、ショーケース化という話も出た。例えば、駅前に何台か車を並べることで、伊勢市の意気込みも伝わるだろうし、市民にも使えると感じてもらえるのではないか。まずは、看板として取組める部分には取り組んでいただき、市としても協力、支援をしていきたい。
- ・今年は遷宮の年。今までにない観光客数を迎え、今まで経験したことのない交通渋滞も予想されることから、超小型モビリティが走ることによって更なる渋滞が発生しないかは心配の種だった。しかし、そこはみんなが工夫すれば乗り越えられると思っている。いずれにしても、私ども行政としては何らかの形で見える化を実現し、観光やまちづくりに資することが出来ればよいと思う。まずは実行、というのが今の率直な気持ちである。

(外宮参道発展会 会長 山本氏)

- ・事務局に確認したい点がある。来月の協議会が最後で、WGも解散という理解でよいか。

(事務局)

- ・行動計画を作るWGは解散するが、作業するWGは再度組み直す。

(外宮参道発展会 会長 山本氏)

- ・わたしども、おもてなしWGでは、見せる部分に限ったものを「おもてなし」と表現するというので、それ以上の議論はしなかった。このWGの中に、伊勢市民に所有を促すような啓蒙活動はいっさいない。補助金があるから買うというのは違和感がある。私はWGでも発言したが、なぜ環境にやさしいことが伊勢市にふさわしいのか、再度それを考え、主旨としてきっちり盛り込むべきと考える。伊勢神宮がずっとやってきた、自然と人間が共に暮らしていくためのヒントが伊勢市にはある。だから伊勢市は日本の先頭を切って低炭素社会を目指すのだということをちゃんと謳うべきである。
- ・先ほどから議論になっている、20日までに事業計画書を提出することについては、誰が費用負担するかも決まっていない中、非常に難しいことだと個人的に思っている。ただ、来年度も同様の補助金があるのであれば、来年に向けて、本来の姿である伊勢市民がより多くEV車に乗る、と同時に充電器設置をはじめいろんな新しいアクションの中で進めていくことが最もよい形だと思った。

(事務局)

- ・事務局としては来年度の申請もやぶさかではない。態勢を整えて取り組むことは最も大事と思っている。
- ・小型モビリティの取り組みを5月に開始するとなると、補助金が出て実際に走るのはおそらく10月過ぎくらいのスケジュールになるのかと思っている。

(近畿日本鉄道株式会社 事業開発部部長 松井氏)

- ・超小型モビリティ導入に反対しているわけではない。補助があるからというより、EV等、超小型モビリティを導入することが、利用者、市民、観光客にとってよいことではないと普及は望めない。極論であるが、EVしか停められない駐車場をつくったとして、その理由は観光資源にとって低炭素でやさしいからとか、充電器を設置するメリットを理解してもらう必要がある。導入自体は賛成で、そのための仕組みが出来ればと思っている。

(朴会長)

- ・ありがとうございました。みなさんの貴重なご意見は、すべて前向きである。これまで、各WGでは非常によい議論をしていただいていたにも関わらず、それを共有できる場が少なかったと思う。
- ・基本的には来るチャンスは拒まない。そのための準備は常に進める。けれども、準備は完璧ではないので、走りながら修正し、修正しながら発展させる。PDCAサイクルはこのためにあるようなものである。
- ・今回は、皆さんのおかげで、どこを目指すのか、何をしようとしているのかを共有できるようなペースを作っていただいた。これをもっとよい形に発展させるのがこの協議会の次なるミッションである。
- ・この協議会は当面終わらない。WGについては、これまでの落ち着いて考える段階のWGから、次は実際にどう中身を充実させていくかWGになる。この新しいWGは皆さんと話をさせていただく中で、どういうやり方が最も建設的かつ有効的なのかを考えたい。
- ・冒頭でも話したように、3月までにある程度の方向性を見せたい。その中から見える化できるものを無理のないところから取り入れながら進めていく。今回は、初期的段階ではあるが、超小型モビリティというひとつの見える化に、国の補助を活用しつつ一歩踏み出そうとしたことに意味があると思っている。
- ・この協議会で議論される内容は多岐にわたり大変奥が深いので、この会議をたまにやって、すぐに低炭素社会ができるとは思っていない。先程伊勢市生活環境部長がおっしゃったように、EV車が増えて渋滞が深刻になったらどうするというものを行政として考えるのは当然である。そこをいかに知恵を絞って対処していくか検討することもこの協議会の役割である。だからこそ、伊勢市の各セクターが縦割りではなく横のつながりで協力してやっていく必要がある。
- ・具体化、見える化の第一歩として進める超小型モビリティの導入については、業者や実際に関わる人に負担をかけないようにしたい。第1ステージの終わりとして、そこをなんとかう

- まくよい形でまとめたいと思っている。見えてきた課題は第2ステージにつなげたい。
- ・超小型モビリティの導入に関しては、とりあえず協議会の名前で出来ることから進めていく。伊勢市としては手をあげる、一緒にやりたいという当協議会の関係団体、機関として名乗っていくという提案に対し、基本的に賛成をいただくということによろしいか。

～異議なし～

(事務局)

- ・本日の議論の中で確認させていただきたい。
- ・おかげさま Action!の中に 協議会の思い、伊勢で取組む理由、市民が使うことのメリットを盛り込む。 計画に市の目標、県の目標を盛り込む。 短期的取り組みの内容整理。以上3点を追記、修正する。
- ・超小型モビリティ導入については、まずは来年度の国の補助が出る頃を目指すことで、取組の整理をする。次回の協議会で具体的スキームを検討するという認識で間違いはないか。

(朴会長)

- ・よろしいか。ありがとうございました。
- ・資料4の説明をお願いしたい。その後、ご要望や議論があれば承りたい。

(事務局)

- ・資料4説明。
- ・この場で決めなければならないことはない。第4回の協議会で提案させていただいて、WGをつくっていただくということになるかと思う。

(朴会長)

- ・WGはまだ継続するのか。

(事務局)

- ・まだ5回目のWGがあるので、そこで出た意見があれば反映したい。

(朴会長)

- ・デザインWGの最終回の開催日はいつか。

(事務局)

- ・3月6日水曜日午前9時半から、伊勢市役所にて開催予定である。

(朴会長)

- ・WGメンバーはもちろんのこと、関心のある方には是非ご参加いただければと思う。

- ・他に意見はないか。あれば承るが、後程、事務局宛にいただくことも可能である。

(三重県 地球温暖化対策課長)

- ・超小型モビリティ導入については、ご理解いただきありがとうございました。説明不足だったことを再度詫びたい。バスやタクシーもよい話さえあればチャレンジしたい。その際は当然この協議会の場で説明させていただいた上で進めたい。事務局として今後も努力していきたいので、どうぞよろしくお願い致します。

(朴会長)

- ・ありがとうございました。これで、今日の次第にもとづいた議事進行は終わるが、何かコメント、意見はあるか。
- ・皆さんのおかげで何か見えた気がする。しかし、課題も出た。第4回協議会では計画案が通るよう最大限の努力をしたい。ご意見、コメントがあれば事務局に寄せていただければと思う。

5 . 閉会

(朴会長)

- ・では、これをもって、第3回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を閉会させていただきます。ご協力ありがとうございました。

以上